

持続可能な社会の実現に向けて

～食品廃棄物～



SDGs(Sustainable Development Goals)は国連が採択した「持続可能な開発目標」で、17の目標で構成されています。

アクシアル リテイリングでは、食品廃棄物・食品ロス、レジ袋・容器包装の削減などの環境保全の取り組み、働きやすい環境づくりなどに取り組んでおりますが、SDGsの考え方を経営の中に取り込み持続可能な社会の実現に向けた取り組みを更に深めてまいります。

なかでも食品廃棄物については、SDGsの目標を受け、日本でも2030年にサプライチェーン全体で2000年度比の半減が目標とされており、再生利用等の実施率目標については食品小売業で60%とされています。

アクシアル リテイリングでもこの目標の実現に向け、食品廃棄物の発生抑制とリサイクルの取り組みを推進してまいります。

■「にいがたSDGsフォーラム2020」事例紹介

2020年2月18日に新潟日報社様主催で行われた「にいがたSDGsフォーラム2020」において、食品ロス削減の取り組みを含む原信・ナルスのSDGsの取り組みを紹介いたしました。



フォーラムでの事例紹介
(写真:SDGsにいがた提供)

■賞味期限の年月表示化

商品の賞味期限は、製造から3か月を超える場合、食品廃棄物削減につなげるため、日付のない年月表示が推奨されています。

当社のプライベートブランド商品でも年月日表示としている商品がありましたが、年月表示が適切と判断した商品については、適宜、表示の切り替えを行っています。



年月表示

■食品廃棄物の発生抑制

データに基づいた商品製造数・発注数の決定、研修による商品作りの技術向上などにより、食品廃棄物を発生させない取り組みを進めています。

なかでも原信とナルスでは、環境マネジメントシステムの環境目標に「食品廃棄物の発生抑制」を掲げ、廃棄率(売上金額に対する廃棄商品金額の率)を管理数値に定めて低減に努めています。その結果、2019年度は廃棄率0.35%に改善しました。



■従業員の声

食品廃棄物発生抑制の目標値達成に向け、適正発注と適正在庫の維持、および廃棄作業に対する仕組みづくりに取り組んでいます。

開始後2か月で在庫日数を約0.5日削減、廃棄率は0.4%に削減出来ました。廃棄作業そのものに部門メンバー全員が関わることで、結果数値のみを共有するよりもはるかに意識の向上が図れています。



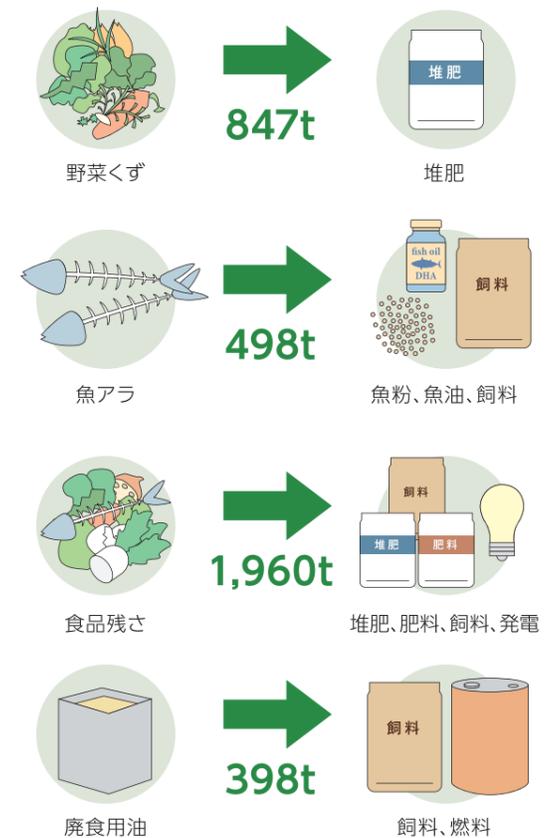
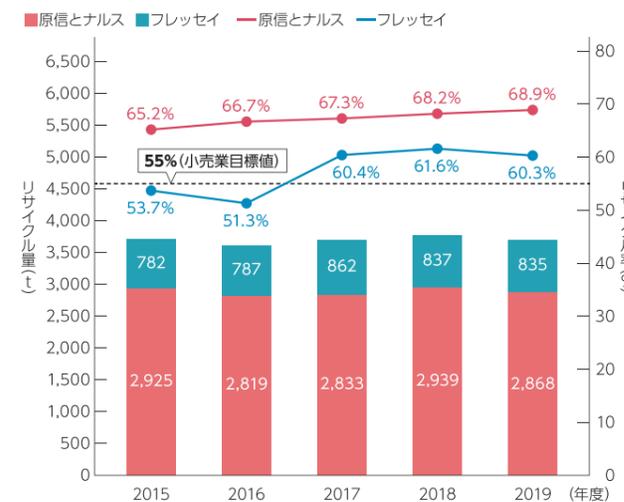
原信 宮内店
青果部門 チーフ
渡辺一夫

■食品廃棄物のリサイクル

食品廃棄物は出来る限りリサイクルをしています。2019年度は新たに12店舗でリサイクル品目の拡大、1店舗で新規取り組みを開始いたしました。

リサイクル率100%達成を目指し、今後も各社で情報共有をしながら取り組みを推進していきます。

食品廃棄物(廃食用油含む)のリサイクル量および率



持続可能な社会の実現に向けて ～レジ袋の3R活動～

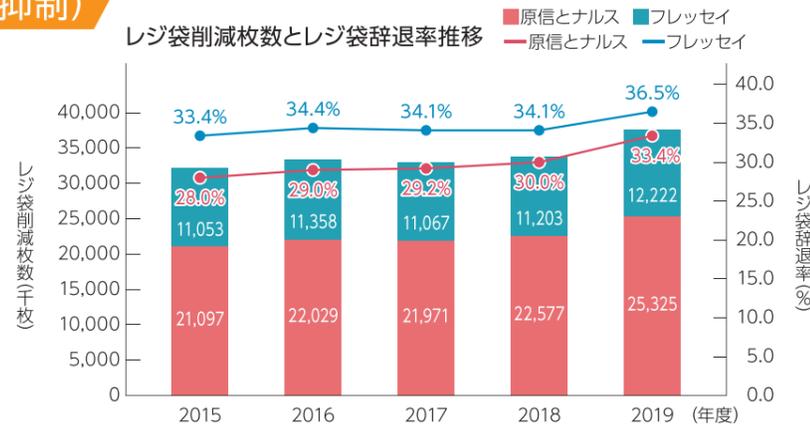


多くのお買い物シーンで活躍してきたレジ袋。しかし海洋プラスチック汚染問題は地球規模での課題となり、ワンウェイプラスチックなど、使い捨て型ライフスタイルの見直しは、食品スーパーにとって大きな責務のひとつとなりました。

アクシアル リテイリングでは、レジ袋の3R活動を通じて、不要なレジ袋の使用を抑制してきました。これからも限りある資源の保護と持続可能な社会の実現に向け、レジ袋の削減に取り組めます。

リデュース!レジ袋(発生抑制)

不要なレジ袋を削減するため、お客様のお買い上げ量に適したレジ袋を使用するように努めています。原信とナルスのレジでの袋詰めサービスは、レジ袋の使用枚数抑制にもつながっています。



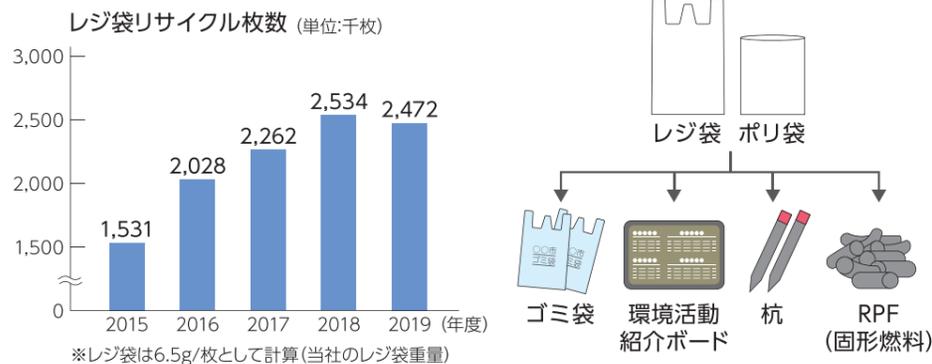
リユース!レジ袋(再利用)

一度お使いいただいたレジ袋をマイバッグ代わりに使用いただく取り組み「リユース!レジ袋」を推進しています。またレジ袋を透明にすることで、自治体のゴミ袋として再度ご利用いただけるようにしています。



リサイクル!レジ袋(再資源化)

原信とナルスでは、不要となったレジ袋を店頭で回収してリサイクルをしています。またお買い上げ時にお客様がご利用になったポリ袋もあわせて回収しています。



持続可能な社会の実現に向けて ～容器包装の見直し～



商品のプラスチック製容器包装は、商品の品質保持の延長などに貢献することなどから、私たちの生活に無くてはならないものとなりました。その一方で、多くの素材が使用されていることから、リサイクルが難しい容器包装が多いことも事実です。

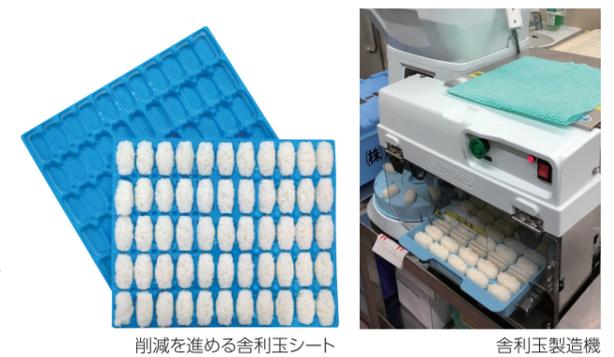
アクシアル リテイリングでは、容器包装として使われるプラスチックを出来る限り削減できるよう、容器包装の薄肉化などに取り組んでいます。

また新たな取り組みとして、生物由来のバイオマスプラスチックを使用した容器包装の導入も進めています。これは、地球温暖化防止や化石資源への依存度低減にも貢献することを期待しての取り組みです。



プラスチック資材削減の取り組み

使い捨てのプラスチック資材の削減のため、お寿司の舍利玉を店内作業場で製造する方法に変更しています。以前は、グループ企業のローリーで舍利玉を一括製造し、シートに包装して各店舗に納品、その後シートは廃棄していました。この取り組みにより、年間約21tものプラスチックが削減できました。



関連会社の取り組み

株式会社原興産【清掃・リサイクル、保険契約に係る保険代理店】 / カ丸流通サービス株式会社【清掃・リサイクル】

ポリスチレン (PS) インゴットの安定した再資源化供給

店舗より回収する発泡スチロールを加熱することで容積を減らし製品原料にリサイクルしています。なお原興産では、店頭回収した発泡トレーもリサイクルをしています。

原興産では出来上がったこのPSインゴットと呼ばれる原料を、国内と海外の二つのリサイクルルートに出荷しています。従来の海外出荷のみから国内へも拡大することで、政治経済情勢の影響を受けにくい安定した再資源化が行えるようになりました。

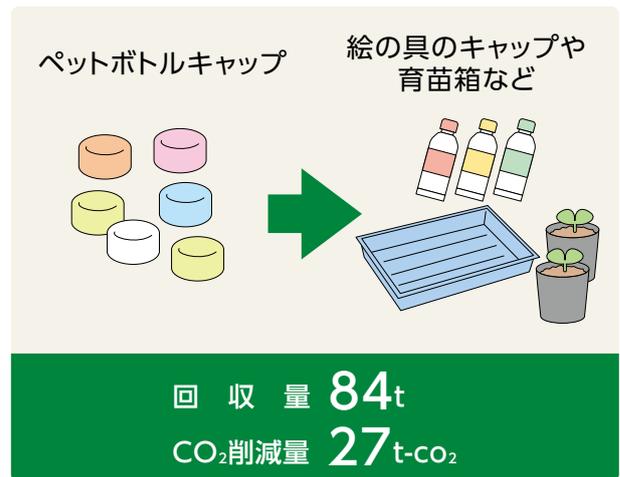
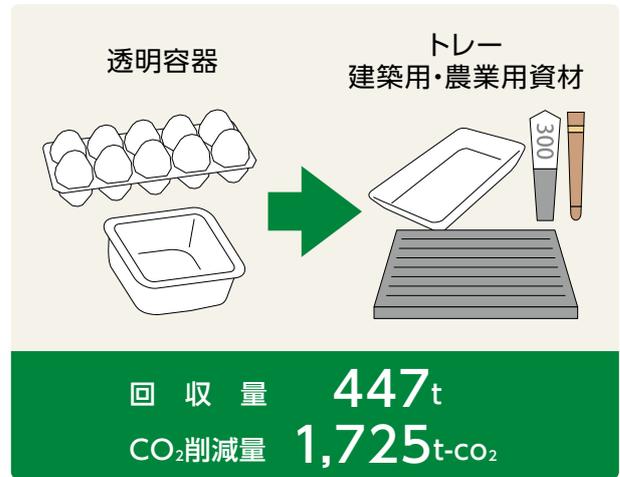
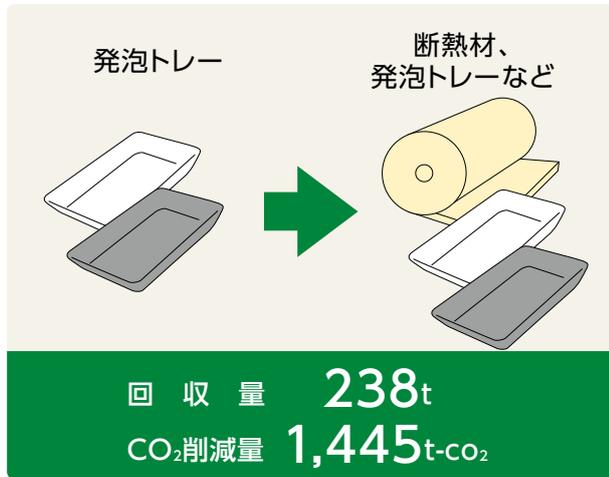


持続可能な社会の実現に向けて

～店頭回収資源～



アクシアル リテイリングでは、店頭の回収ボックスにて資源を回収しリサイクルをしています。これからもお客様とともに活動をすすめ、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



※CO₂削減量は環境省「3R行動見える化ツール」より算出。なおペットボトルキャップは1kgあたりのCO₂削減量を3.15kg-CO₂として算出。